

日本民間生薬検定試験問題 解説 【上級】

第4回(平成 27年 12月6日実施)

上級で学んだ生薬すべてについて万遍なく出題した。設問もその生薬について知っておかなければならない基本内容である。すなわち、生薬の名称、基原植物と所属科名、薬用部位、薬効、成分である。これらの設問に答えられれば、上級の知識は十分に身に着けたと言える。ただ、これらの知識を“丸暗記”しているだけでは面白くない。生薬は知るべきことも多く、奥も深い。現在の知識を基本にして、積極的に知的好奇心を持って勉強を続けていただきたい。

問 1

次の植物の薬用部分を()内にA~Lより、薬としての主な用途を[]内に1-17より、それぞれ1つずつ選び、記号・数字で答えなさい。

カラヨモギ (C) [7] ニガキ (H) [8] カノコソウ (I) [16]

ツリガネニンジン(K) [10あるいは13] コブシ (B) [1] トロロアオイ (K) [2あるいは17]

ウスバサイシン (IあるいはK) [4あるいは14] カリン (E) [10あるいは14] ヒメガマ (D) [15]

- | | | |
|---------------|-----------|----------------------|
| A. 開花期の全草 | B. つぼみ(蕾) | C. 頭花を多数つけた花穂。茎、葉も使う |
| D. 花粉 | E. 果実 | F. 成熟した種子 |
| G. (周皮を除いた)樹皮 | H. 材 | I. 根及び根茎 |
| J. 鱗茎 | K. 根 | L. 根皮 |
1. 鼻炎、蓄膿症薬 2. 緩和剤、利尿薬、和紙の糊料 3. 偏頭痛治療薬
4. 頭痛、歯痛、風湿による関節炎に応用、口内炎に臍に貼るという療法もある 5. 発汗薬
6. 抗痛風薬 7. 肝炎の予防、黄疸などの治療 8. 苦味健胃薬
9. 緩和、強壮薬 10. 健胃、鎮咳、去痰 11. 婦人病薬 12. 鎮痒薬(かゆみ止め)
13. 陰虚の人の咳や口渇に適用 14. 鎮咳、鎮癒、鎮痛、利尿
15. 切り傷、火傷の止血、口内炎などに外用 16. 鎮静作用 ヒステリー治療薬
17. 膀胱炎、貧尿、などに内服し口内炎などにうがい薬とする。和紙製造の糊料にもする。

解説 薬の薬用部位と薬効に関する問題である。薬用部位は実際の生薬を見ていれば容易に答えられる問題であるが、根と地下茎は区別が難しいかも知れない。地下茎には根茎、鱗茎、球茎、塊茎がある。まずはテキスト通りに“暗記”しよう。セリ科とキク科の果実は小さくて種子のようなので注意しよう。

薬効はテキストにある通りに出題した。漢方で使う生薬の薬効は巾が広いし、漢方的な理論で説明されていることも多い。これらは徐々に勉強をしていってほしい。

問 2

次の科に属する植物を下欄より選び、その名前を()内に、この植物から得られる生薬の名前を[]内にカタカナで書きなさい。

リンドウ科(A センブリ)、(B トウヤク)、 マメ科(A エンジュ)、(B カイカ)
モクレン科(A コブシ)、(B シンイ)、 バラ科(A カリン)、(B モッカ)

植物：イヌサフラン、イカリソウ、メハジキ、ナツメ、センブリ、トウキ、コブシ、ニガキ、
カリン、エンジュ、ウスバサイシン

解説 最近、DNAによる科の新しい分類が行なわれるようになり、従来の科と所属が違うことが多い。やっかいなことであるが、日本薬局方に準拠しておくか、従来の科名を使うのが無難である。上記の科名に変更はない。

問 3

次の生薬名の読み方を () 内にカタカナで答えなさい。

黄蜀葵根 (オウショクキコン) 大 棗 (タイソウ)
忍 冬 (ニンドウ) 益母草 (ヤクモソウ) 沙 参 (シャジン)

解説 方系生薬には必ず漢名があるので読み方と一緒に覚えること。なお、同じ生薬名でも基原植物がいくつもあることがある。

問 4

次の成文を証約の主成分、あるいは薬効成分として含む植物の名前を () 内に書きなさい。

berberine (キハダ) alliin (ニンニク) rutin (エンジュ)
colchicine (イヌサフラン) swertiamarin (センブリ)

解説 成分名は学名と関連していることが多い。英語は見れば分かるようにしてほしい。上記で語尾がneはアルカロイドである。

問 5

次の文章の内容が正しいものには○を誤っている場合は×を () 内に記入し、誤っている場合は誤っている個所に下線を引きなさい。

- (×) クコはナス科の植物で、果実、葉、根皮が薬用とされ、それぞれ枸杞子、枸杞葉、枸杞皮という生薬名がある。いずれも強壯薬である。
- (×) キハダはキンポウゲ科の木で、内皮が黄色を呈するのでこの名がある。強い苦味と抗菌作用があるために健胃整腸薬として使われる。
- (×) クララは日本産のマメ科の植物で、根はフラボノイドのmatrineを含み、苦いので生薬名を苦参という。苦味健胃・強壯薬とするほか、激しい痒みに外用する。
- (×) イカリソウは果実の形が錨に似ているのでこの名がある。地上部全草を和淫羊藿といい、強壯、強精などを目的に用いる。

解説 1. は生薬名、2. は科名、3. は成分の分類、4. は名前の起源に間違いがある。いずれもテキストに書かれている内容である。